

実施年度	実施主体	対象獣種	取組内容			
			捕獲	追払	点検	他
R7~R9	山梨県甲斐市	シカ、イノシシ、中型獣類	◎	-	-	-

事業概要

- ・ 中山間部にて、シカやイノシシ用のくくりわな付近にセンサーカメラを設置することで、実施隊と市担当がわなの状況を映像で迅速に確認できる体制を構築
- ・ 中型獣類の捕獲には、開閉情報通知機能付き小型箱わなを活用することで、省力的な捕獲を実施

【イメージ】



くくりわな付近に
センサーカメラを設置



センサーカメラ映像



【データの利用イメージ】

- データ集約方法
 - ・ わな作動をセンサーで検知
 - ・ LoRaで低消費電力・長距離送信
 - ・ 拠点ゲートウェイで受信
 - ・ 小型サーバーでDB、クラウド保存
 - ・ API経由で可視化・通知系へ展開
- 活用先
 - ・ 狩猟者への即時通知（出動効率化）
 - ・ 甲斐市側での進捗管理
 - ・ 捕獲データの蓄積・分析
 - ・ 次年度の設置最適化（DX化）
 - ・ 見回り負担の軽減

管理運用インターフェース
「けものポータル」



R7年度実績

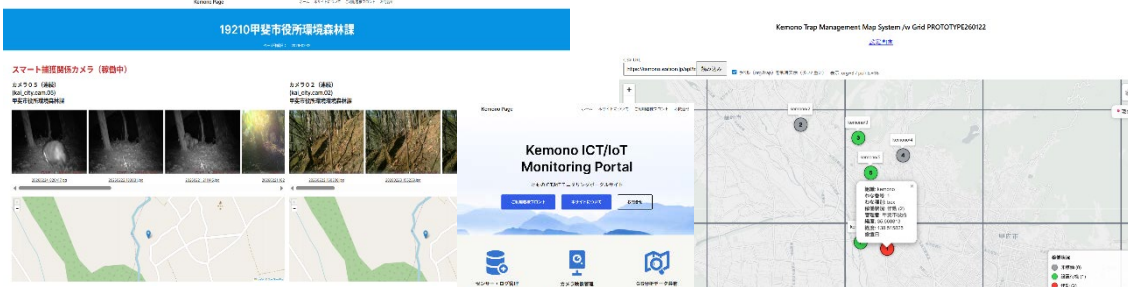
次年度以降実施予定

実証内容

- ・センサーカメラを設置し、くくりわなの状況を遠隔で見える化したことにより、通知が来た際に空振りか捕獲されているかをあらかじめ判断でき、**山奥や傾斜が強い場所への見回りの省力化**に繋がった。
- ・捕獲されずとも、**写った個体から生息状況を確認**できるため、**効果的なくくり罠の設置場所の選定**に繋がった。
- ・捕獲時は個体をカメラ映像にて確認できるため、**今後クマ等が錯誤捕獲された際にも応用でき、実施隊の安全が確保**できる。
- ・プッシュ通知アプリの利用により、カメラ映像の確認はセンサー感知時のみ受動的に確認するだけでよいため、担当者も対応がしやすかった。
- ・比較の見回りがしやすい場所には、わな作動センサーを設置し、くくりわなおよび箱わなの稼働状況を見える化。
- ・上記のデータ管理をシステム上で一元化できたため、**センサーカメラの映像・わな位置、わな作動センサー付きのわなの位置の確認が容易にできる**ようになり、**実施隊および職員にとっても確認作業が簡略化**された。また、一元的な可視化システムの活用は、**担当職員が異動時にも、効果的な対策の継続**に資するものと考えられる。

カメラ管理 ※全てのメール送信型カメラに対応可能

わな管理 ※メーカー問わず全ての動作型わなに対応可能



けもの対策組織のノウハウを集約・実装したカメラ・わな・センサー等一元管理システム

- ・初年度は収集データが少なかったため地区を拡大し、甲斐市双葉地区および甲斐市敷島地区にて実証を行い、**より多くのデータを収集**する。
- ・箱わなの稼働頻度が少ないため、箱わなの検証箇所を中山間部から人の生活圏周辺の畑等に変更し、アライグマ、ハクビシンの**被害報告の多い春夏に多く検証を行いデータを収集**する。
くくり罠は引き続き中山間部にて実証する。
- ・わなの設置にあたり、事前のイメージと実作業の負担感に相違があることから、職員が実際に現場に行き情報等を収集する。
- ・センサーカメラに写った個体の**AI判定の結果データを取りまとめる**。
- ・高齢化が進む実施隊内でのデジタルデバイドの解消に向け、**若年層の隊員の協力も得ながらスマホ操作研修を行い、データ利用者を拡大**させていく。

導入機器

※交付金活用外の機器を含む

- ・センサーカメラ、TREL 4G-H 10台
- ・アニマルトラップ1081 3台
- ・わな発信機、受信システム 1式
- ・けものポータルシステム（甲斐けもの社中） 1式

- ・センサーカメラ 5基